

眼を閉じて

著者	林 亨
雑誌名	生涯学習研究と実践 : 北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要
巻	7
ページ	15-16
発行年	2004-12-20
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00002301/

眼を閉じて

Les yeux clos

林 亨

HAYASHI, Toru



眼を閉じて [kokoro 03]
和紙・カルバンパネル・ミクストメディア
78cm×56cm 2004年

独り言―隠された道への森にて（２）

◎私の絵画表現の主たる意図の一つに、視覚的なレイヤー感と物理的な奥行き感を錯綜させ、観る者が、絵の中で、その物質性とイリュージョンの交歓を楽しむことが出来るような画面を作るというものがある。和紙という支持体で絵画空間を作ろうとしているのはそのためである。麻布や綿布に下地をしっかりと作り、油彩やアクリル絵の具で、重層的にこちらに向かってくるような方向に色彩パートを重ねていくだけでは表せないのである。その第一段階としてまず、和紙に蜜蝋でドリッピングをする。この時は蜜蝋には顔料などは混ぜないので、半透明の液体を紙に定着させるだけになる。シミのような微妙な痕跡をつくっていくこの作業は、彩色ではなく支持体の変容を目的とする。和紙の蜜蝋が置かれた部分は蜜蝋が染みこみ、和紙の生地を保護する膜となる。この部分が、和紙という支持体で制作する絵画空間をつくっていく時の重要な効果をもたらす。

◎ドリッピングという手法は、その偶然性に依拠するところだけを取り上げると、一見主体的な構築性を排除するかのように見えるが、私の場合、ブラッシングの延長線上にあるものと捉えている。もちろん、直に支持体に触れながら絵の具を載せるブラッシングも、完全に制御できない、何かしらの偶然性を含んだ手法である。つまり、絵の具を定着させる行為はすべて、偶然性と何かしらの関わりを持たざるを得ないといえるのではないか。私は、そういう自覚を常に持って、表現方法を捉える必要があると考えている。